

干潟の保全・再生に向けた取り組み

～似島の人工干潟におけるアマモ分布調査～



アサヒビール(株)からの助成事業です

似島『二階地区』の人工干潟とアマモ場

広島市南区内にある島「似島」。美しい「安芸小富士」がそびえる島は、広島港から南に3kmと近く、自然豊かな身近な島として多くの市民に親しまれている。

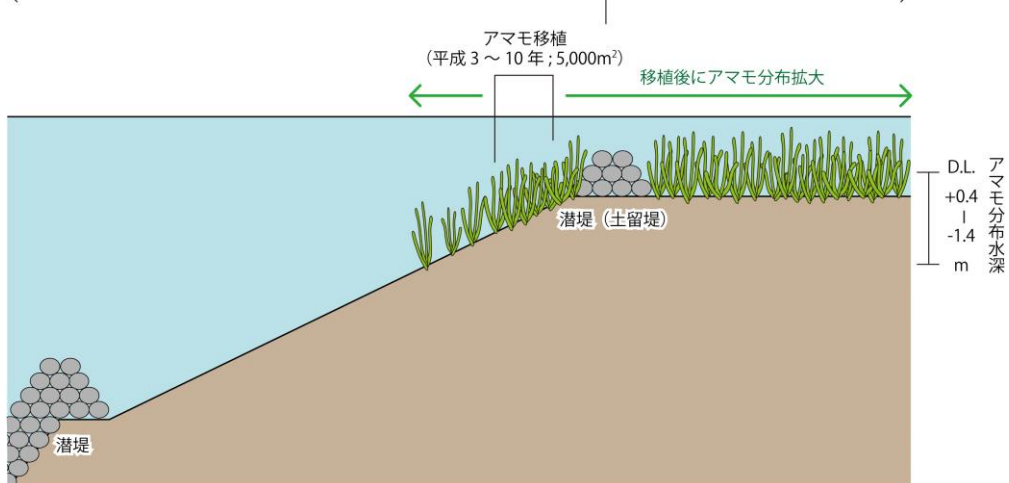
似島の南に二階と呼ばれる地区がある。この地区の入り江では、浚渫土を利用した人工干潟が昭和62～平成1年度にかけて施工された。また、当時、広島湾内ではアマモ場が減少し、その再生が課題となっていたことから、平成3・9・10年度にはアマモの移植事業がこの人工干潟で実施された。

造成された人工干潟の特徴は、地盤の安定性を高めるために、沖側と岸側の2箇所に潜堤が配された点にあり、アマモはその岸側の潜堤(土留堤)の前面に5,000m²移植された。

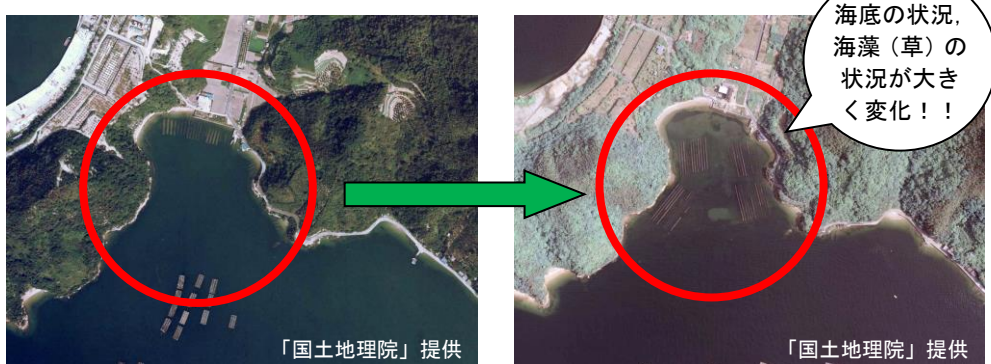
その後、移植したアマモは、平成13年に15,555m²まで拡大し、『人工干潟におけるアマモ場造成』の先進事例として全国的に知られるようになった。



人工干潟造成(昭和62～平成元年) 外浜 人工干潟(前浜)



人工干潟及びアマモ場造成のイメージ



(造成前：1981年3月撮影)

(造成後：2008年2月撮影)

人工干潟及びアマモ場造成前と造成後の比較

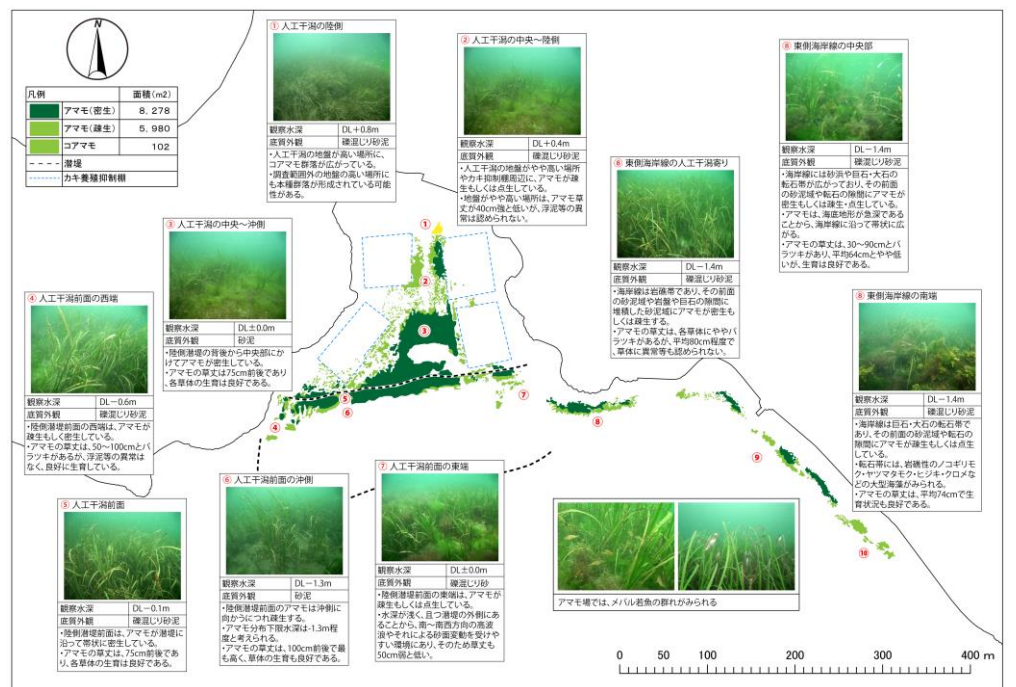
『二階地区』におけるアマモ場の現況

二階地区の人工干潟におけるアマモの分布や生育状況は、平成13年以降得られていない。そこで、人工干潟及びその周辺部におけるアマモの分布及び生育の現況を把握することにした。

アマモの分布は、サイドスキャンソナーを用いて調査した。また、生育状況は潜水目視にて把握することにした。

その結果、二階地区の人工干潟及びその周辺部におけるアマモの分布面積は、現在14,257m²であることが判った。また、現存するアマモ群落は、岸側の潜堤(土留堤)の前面と背後の人工干潟に大きな群落を形成しており、その面積は11,289m²に及ぶことが判明した。

この分布面積は、平成13年の人工干潟域の分布面積に比べ4,266m²下回った。しかし、十数年経過した現在もかなり広い範囲でアマモが現存し、また生育状況も総じて良好であった事実は、人工干潟及びアマモ場造成の効果が今もなお持続している表れと評価できる。



二階地区の人工干潟及びその周辺部のアマモマップ(平成27年7月)

人工干潟及びアマモ場造成の成功の鍵

人工干潟及びアマモ場造成事業の大きな課題の一つとして、波浪等による砂面変動があげられる。当該地区は、海面の吹送距離が長い南から南西にかけて強い風が比較的頻繁に吹く。そのため、人工干潟は高波浪の影響を受けやすく、砂面が変動しやすいと考えられる。

二階地区に造成された干潟は、地盤の安定性を向上させるために、二段潜堤と呼ばれる形式で施工された。アマモの移植事業が成功した背景には、この二段潜堤の効果が大きく寄与したと考えられる。また、十数年経過した現在も広い範囲にアマモが分布するのは、加えてアマモ群落自身の地盤安定機能が発揮されている結果であろう。

調査時、アマモ場にメバル若魚が数多くみられた。アマモ場は、メバル等の幼魚の保育場、アオリイカ等の魚介類の産卵場、水質浄化、波浪や砂面変動の低減など様々な機能を有している。恵み豊かな里海を子どもたちに引き継ぐ上でも、失われた干潟や藻場の再生は急務であり、本事例は特に急深部や波浪の影響を受ける地域の再生活動の良い参考になるものと思われる。

